

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530016		
法人名	株式会社 介護福祉計画		
事業所名	グループホーム猪苗代 1階		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲2855		
自己評価作成日	平成26年 7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成26年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれて自然を満喫できること、ホームでの花植え、水やりを日課として、植物を育てる喜びを感じて頂くことができます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 開設8年目の事業所で開設時からの利用者も多く職員と利用者のコミュニケーションが円滑であり、職員の笑顔と生き生きした行動に利用者の表情も明るく和やかな雰囲気のある事業所である。理念に謳っている「笑顔あふれる生活」を実践している。
 2 協力医療機関から月2回の往診があり利用者個々の健康管理に努め、緊急時には協力医療機関及びかかりつけ医と連携し適切な医療が受けられる体制となっており、家族の安心に繋がっている。
 3 運営推進委員は各分野から選任され、委員からは事業所の運営等多くの意見や提言があり、運営推進会議の意義を踏まえたものとなっている。行政職員も毎回2名の参加があるなど協力体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関及び事務所等に掲示して職員一同その理念を共有して実施している	「なじみの地域で笑顔あふれる幸せな老後を共に暮らす」ことを理念としており、全職員が統一した意識のもと利用者一人ひとりが安心して笑顔で暮らし続けられるよう日々のサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動、温泉祭り等に積極的に参加している。保育所の子供達が豆まきをして最後に握手をしてくれる	地域の夏祭りや温泉まつりへの参加や敬老会・高齢者作品展等への出展等地域との交流は年々活発になっており、近隣住民との触れ合う機会も多くなってきている。ボランティアも多く受け入れ交流している。保育園児との交流は恒例となっており、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々と一緒に奉仕作業を行ったりして地域の行事に参加している。町の高齢者作品展に出品して見学しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し運営推進会議のメンバーから意見をいただきサービスの向上に努めている	運営推進会議は定期的開催している。会議では事業所の情報を積極的に公開しており、委員からは地域の情報や地域消防団との連携や除雪等多くの提案があり、事業所運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者と連絡を取りながら相談し、サービスに生かしながら町の高齢者作品展等に参加しています	運営推進会議には行政職員2名が毎回参加しており、事業所の実態を把握してもらっている。日頃から行政職員と協力関係が築かれており、情報の交換が円滑に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し利用者様が近づくので分かるので職員がすぐ対応する。日中は鍵をかけないケアをしているが時間帯によっては鍵をかけることがある。身体拘束の禁止については職員一人一人が心がけている	「身体拘束の排除」をテーマに研修を通して全職員が拘束のないケアに努めている。また、「言葉による拘束」についても職員同士で注意しあっている。一人で外出する利用者には、さりげない声掛けや見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議での内部研修を行い虐待防止に努めている。入浴時等には皮膚の観察を虐待が見過ごされないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解しているとは言えず支援体制が十分だとは言えないため、今後は勉強会などを設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者様に十分な時間をとり、不安や疑問点を尋ね説明し、理解納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日頃の意見を吸い上げ家族に伝えること、又家族様が面会時に施設に対する要望等が気軽に言えること等を運営に反映させている	家族会や運営推進会議に家族の参加があり、これらの機会に意見の交換をしている。利用者の家族訪問時には、意向把握に努めている。家族の意見等は全体会議等で話し合い、日常のサービスや事業所の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議時に職員の意見や要望を聞き運営に反映させている	オープンで話しやすい職場環境であり、常に職員の意見や提言を聞く体制となっている。出された意見は職員会議等で話し合い、課題によっては法人に報告し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人の状況を把握し各自がやりがいがあり向上心を持って勤務できるように職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の状況に応じた研修会等に参加し全体会議で伝達研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連企業のグループホームとの意見交換やグループホーム協議会の研修会等に参加しサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の意向や本人の思いを良く聞き安心してサービスの利用ができるように信頼関係作りにも努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と十分に話し合い連携を取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の最優先にしなければならないことを把握し可能な限り本人と家族の思いに柔軟に対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嬉しいこと、悲しいこと、辛いことを共感しながら支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、誕生会等の機会や面会時などによく話を聞き家族の思いを受け止めながら入居者様を支援するよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先で馴染みの人に会った時は会話したり、電話でのやり取りなどで途切れないように支援している	馴染みの理美容院の利用は家族の協力のもと継続しており、訪問美容も受け入れている。友人や親せきの面会も多く、これまでの関係が継続できるよう支援している。家族同伴で墓参りなどの馴染みの場所やお店を利用している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の間にはスタッフが入りお互いの入居者様の会話を盛り上げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後いつでも連絡いただけるように相談に乗り関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で行動や会話からの意向を聞き、絵本を読まれる、歌を歌う、写し絵を描くなどそれぞれ得意なことをしている	利用者の支援には担当制となっており全職員が些細なことでも把握できる体制となっている。利用者の表情や行動から、今望んでいること、やりたいこと等を把握し、利用者本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に家族からこれまでの生活歴を聞き、ケアに反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、介護日誌、申し送り等により日々の変化を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングし担当者会議で各関係者と話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現状把握を十分行い利用者本位の介護計画を作成している。個別記録・介護日誌・申し送り書等をもとにサービス担当者会議を開催し、利用者の状況を詳細に出し合い、課題解決に向けて話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等は必ず記録しスタッフ間での情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応し柔軟な支援やサービスの提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの支援や保育園時により豆まき行事に参加していただいている等、地域の人人々に協力いただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度(火曜日)の定期的な往診体制が整っている	かかりつけ医の受診は家族対応を基本にしており、利用者の状態により往診もある。受診の際には利用者の情報提供をして医療機関と連携を密にしている。受診後は受診記録を活用し情報の共有をしている。協力医療機関からは月2回の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度(木曜日)の定期的な訪問看護により入居者様は適切な受診と健康管理が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報を交換して状況を把握し入退院の受け入れ体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に対して家族や医師と話し合い方針を共有化している	事業所では、「重度化・看取りに関する指針」を作成しており、利用開始時に家族に説明し理解を得ている。重度化した場合には家族、医師、職員等で十分話し合い家族の意向に沿って柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは応急手当や初期対応の講習を受ける等して実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に通報訓練、避難訓練、消火訓練を全職員が身につけ、地域との協力体制を整えています	消防署立ち合いのもと総合防災訓練を実施しており、地元消防団や地域住民との協力体制も築いている。事業所独自の避難訓練、伝達訓練や通報訓練等を年間計画し実施している。非常用の水・缶詰・コンロ・電池等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重しプライドを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者の人権を尊重し、言葉かけには十分注意して支援しており、トイレや入浴の誘導には利用者の気持ちを大切にさりげない声かけを工夫して実践している。個人情報保護については、全職員が理解して実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を日々の生活の中から把握し本人が納得できるまで説明などしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて寄り添った介護をしその中から希望を聞いたり読みとったりしてその人らしい暮らしができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合ったその人らしいおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の買い物などスタッフといっしょに買い出しにいきます。食事の準備、後片付けなど手伝っていただいています	食材の買い出しには利用者と共に出かけ、食への関心を大事にしている。季節感のあるメニューを取り入れ、職員とともに会話しながら、ゆっくり時間をかけて食事を楽しんでいる。利用者の状態によっては刻み食やおかゆなどで対応している。行事食も多く企画し、食事を楽しむ機会を確保している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合った食事量、水分量の提供をしています。飲み込みが悪い方には刻み食やトロミをつけて提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて食後は必ず歯磨きをし、異常の状態発見時は歯科受診を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を生かし一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた支援をしています	排泄パターン表を利用し、全職員が利用者のサインを読み取るように努め、自然排泄の支援をしている。リハビリパンツやパット等の使用も利用者一人ひとりにあった支援に努め、トイレでの排泄に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防には水分を多く摂る運動量を増やす等個々に合った働きかけをしています。又便秘への対応としては医療との連携を図り、下剤を使用する時もあります		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴できるよう支援に努めています。又いろいろな入浴剤を使用するなど、入浴を楽しんでいただいています	利用者の希望により入浴できる体制となっており、入浴拒否者には担当者や時刻を変えて誘導している。入浴できない利用者には足湯や清拭等に対応している。菖蒲湯・ゆず湯などの季節風呂や入浴剤等を利用し入浴を楽しめる取り組みを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の希望によって昼寝をしていただいています、昼夜逆転にならない程度にしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように複数の職員で用量等のチェックを行い、症状の変化等の確認に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の状態に応じて針仕事、写し絵、花の手入れ、山菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ等していただき意欲を引き出すようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は散歩に出かけ、ドライブなどでも外出を楽しんでいます	日常的にドライブで季節を楽しむ外出支援をしている。近くのスーパーへの買い物や公園などに車椅子使用の利用者も一緒に出かけている。好天時には事業所周辺の散歩を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行い、本人の希望によりいつでも引き出せるようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話のやり取りができるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同作品や季節の花を飾り居心地良く過ごせる共用空間作りに努めています	共用空間は明るく清潔に保たれ、花や飾りつけ等で利用者が季節を感じられるよう配慮されている。また、共用空間は広く、ソファ、テーブル、椅子等を配置し、利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ、テーブル、ソファなど配置し入居者様同士がよりよい関係を保てるように支援しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの家財道具などを持参していただき、自宅にいた時と極力近い状態で生活できるよう配慮しています	居室はベット、家具等を自由に持ち込み、その人らしい居室となっている。マットレスに布団の方は和室仕様となっており、自宅と変わらない生活環境を確保している。居室には空調機・換気扇・洗面台が標準装備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない等の人には部屋の入り口の文字を大きくするなど工夫し、食器も個々のものを持ち込んでいただき分かりやすくしています		